

平成21年度 中間評価報告

福島県立双葉高等学校

1 中間評価の概要

(1) 実施方法等

学校経営・運営 ビジョンにおける 重点実践目標No.	重点実践目標に対応する具体的目標の実践・評価部署								
	教務 部	生徒 指導部	進路 指導部	保健 部	図書 部	1 学年	2 学年	3 学年	その 他
1									
2									
3									
4									

重点実践目標および具体的目標については、別紙「学校経営・運営ビジョン」参照

(2) アンケート及び回答数

対 象	中間評価のためのアンケート				
	実施時期		対 象 数	回 答 数	割 合
教 職 員	7/14実施	7/24提出	41	39	95.1%
教職員 生 徒	7/10実施	7/17提出	513	500	97.5%
以外 保 護 者	7/10実施	7/17提出	513	371	72.3%

(3) 評価基準について

評価	A	B	C	D
評価基準	達成できた	やや達成できた	あまり達成できなかった	達成できなかった

2 中間評価のまとめ

(1) 中間評価実施の目的、意図

平成18年度に「双高ビジョン21世紀プロジェクト委員会」を立ち上げ、地域の中学校の生徒や保護者等にアンケートを実施し、平成19年度にその結果を分析して提言されたことについて検討した。そのことを踏まえながら、年度当初に「学校経営・運営ビジョン」を策定し、PTA総会等で保護者の皆様に説明するとともに、重点実践目標の達成に向けて教職員の共通理解のもとに取り組んできた。

教職員・生徒・保護者によるアンケート等により、重点実践目標がどの程度達成されているか、課題や改善点は何かを把握し、年度後半の教育活動に反映させるために中間評価を実施した。

(2) アンケート結果の分析（別紙「中間評価のためのアンケート結果」参照）

「そう思う」と「だいたいそう思う」割合の合計が高いアンケート項目

()はアンケート項目の番号

	教 職 員	生 徒	保 護 者
1 位	(5) 100.0%	(8) 88.8%	(1) 89.8%
2 位	(10) 94.9%	(4) 86.3%	(10) 88.1%
3 位	(2, 3, 4, 8) 92.3%	(1) 85.5%	(4) 86.9%

教職員、生徒、保護者によるアンケート結果において、評価が高かった内容は次のとおりであり、今後も継続して取り組んでいきたい。

進路希望実現へ向けた積極的な支援
進路希望に対応した教育課程
充実した学校生活

「そう思わない」と「あまりそう思わない」割合の合計が高いアンケート項目

()はアンケート項目の番号

	教 職 員	生 徒	保 護 者
1 位	(9) 41.1%	(9) 54.2%	(7) 65.7%
2 位	(7) 38.5%	(7) 51.9%	(9) 59.4%
3 位	(6) 28.2%	(6) 34.0%	(6) 32.1%

教職員、生徒、保護者からのアンケート結果から、次の3点についてこれまで以上に指導していく必要があると判断される。

読書に親しむ習慣や図書館の有効活用
家庭学習の習慣化
開かれた学校づくり

(3) 達成状況、及び後半期へ向けての改善方策等

礼儀を重んじた自律的な生活態度の育成【重点実践目標No.1】

評 価	A	B	C	D
評価部署による評価数	1	2	1	

欠席者(前年度比30%減)、特別指導者数、服装頭髪指導での指導者数が減少したが、女子のスカート丈の指導や携帯電話の校内での新しい使用規程を徹底させる必要がある。2学年は毎週合同SHRを実施して、生活上の注意や制服の着こなし等について指導した。毎月実施している交通安全指導・登校指導や町の街頭指導などを通して生徒を見守ることができた。また、教員数が減少しているため、特別清掃時の清掃分担を工夫して清掃を徹底する必要がある。

学力の向上と進路指導の充実【重点実践目標No.2】

評 価	A	B	C	D
評価部署による評価数	2	8	2	

次年度以降の教育課程について検討した。自習時間数が前年度比27%減少して授業時数が確保され、朝の小テストや週末課題等で基礎を確認するとともに、課外で問題演習等を行い学力向上を図った。放課後自習に出席する1年生が定着するとともに、夏休みの特別講習により受験意識が高まり、主体的に学習する雰囲気広がりがつつある。学習や生活の記録を提出させて指導したが、家庭学習時間が十分に確保されていないため、引き続き各教科で生徒の実態や能力に応じた課題等を与えていく。

1年生は進路意識を高めるための講演等や個人面談を実施したが、まだ進学先等が未定の生徒もおり、意識が低いので、今後、面談等の指導を充実させ、コース選択も含めながら意識高揚に努めていく。2・3年生は1学期に個人面談及び夏休みに三者面談を実施し、模試結果に基づいた学習指導や進路目標の確認・方向付けを行った。

豊かな人間性の育成【重点実践目標No.3】

評 価	A	B	C	D
評価部署による評価数	2	4	2	

遠足やHR球技大会等を通して、級友との親交を深め、協力関係が築かれた。図書館に小論文コーナーを設置し、利用状況も良好である。貸出数は増えていないが、小論文や面接指導によりやや増えつつある。更に読書を定着させていくため、放送による呼びかけや朝読用の蔵書整備を推進する。

健康診断後の治療済報告数が少ないので、再度通知して家庭と連絡をとりながら徹底を図っていく。カウンセリングを予定通り実施したが、養護教諭だけでなく他の教員も時間を工夫して教育相談に対応したい。

開かれた学校づくりの推進【重点実践目標No.4】

評 価	A	B	C	D
評価部署による評価数			1	

今年度、ホームページ委員会を設置し、1学期中にホームページの内容整理とデザインの刷新について検討してきたため、情報の更新があまりできなかった。2学期の早いうちに新しいホームページに衣替えし、随時、情報の更新に努めていく。

平成21年度 中間評価のためのアンケート結果

評 価	A	B	C	D
評価目安	そう思う	だいたい そう思う	あまり そう思わない	そう思わない

1 進路希望に対応した教育課程について

	A	B	C	D
教 職 員	30.8 %	56.4 %	12.8 %	0.0 %
生 徒	22.2 %	63.3 %	11.6 %	2.8 %
保 護 者	19.9 %	69.9 %	8.2 %	1.9 %

教職員87%が進路希望に対応できるよう研究と改善に努めていると答え、生徒の86%、保護者の90%は、進路希望に対応できようような教科・科目が設定されていると回答している。

反面、そう思わない教員13%、生徒14%、保護者10%がいることも忘れてならない。進路希望実現に伝えるために選択科目(3年文型選択の実技科目等)の見直しを含め、より良い教育課程を目指してさらなる工夫・改善を図っていく必要がある。

2 分かりやすい授業の実践について

	A	B	C	D
教 職 員	25.6 %	66.7 %	7.7 %	0.0 %
生 徒	17.0 %	63.9 %	16.2 %	2.8 %
保 護 者	12.4 %	71.1 %	13.5 %	3.0 %

教職員92%は、「分かる授業」や質の高い授業を推進していると答え、生徒81%、保護者の84%も、そう思う、だいたいそう思うと回答している。

しかしながら、授業を受けている生徒19%、保護者の17%は、そう思わないと回答していることから、生徒・保護者からの要望・意見を真摯に受け止め、反省すべきところは反省して、教材研究をはじめとした授業内容の工夫・改善に努めなくてはならない。

3 高校生としてのマナーやエチケットの規範意識の指導について

	A	B	C	D
教 職 員	35.9 %	56.4 %	7.7 %	0.0 %
生 徒	23.6 %	58.4 %	14.6 %	3.4 %
保 護 者	21.0 %	60.7 %	16.4 %	1.9 %

教職員92%、生徒82%、保護者82%が、ほぼ十分に指導が行われていると回答している。しかしながら、生徒18%、保護者18%が不十分と回答し、保護者からはもっと厳しく服装(特に女子の短いスカート)等の指導をしてほしいとの要望がある。

そのためには、学校では、共通理解の下に粘り強く、その時その場での適宜な温度差の無い指導が必要であり、家庭では、登下校時の制服姿を確認して注意していく必要がある。

4 進路希望実現へ向けた積極的な支援について

	A	B	C	D
教 職 員	23.1 %	69.2 %	7.7 %	0.0 %
生 徒	28.3 %	58.0 %	12.0 %	1.6 %
保 護 者	22.9 %	64.0 %	11.7 %	1.4 %

教職員 92% が生徒の進路希望実現に対して積極的に支援していると答え、生徒の 86%、保護者の 87% が課外授業や講習等を積極的に行っていると回答している。

一方、生徒・保護者からは、進路に関する資料の提供や面談等の充実などの要望が出ていることから、生徒一人一人の実態に応じたきめ細かい指導を行っていくことが大切である。

5 部活動の活性化について

	A	B	C	D
教職員	28.2 %	71.8 %	0.0 %	0.0 %
生徒	29.1 %	43.1 %	19.2 %	8.6 %
保護者	22.3 %	57.5 %	16.3 %	3.8 %

教職員 100% は、部活動の活性化を図り、豊かな人間性の育成に取り組んでいると答え、生徒 72%、保護者の 80% も、そう思う、だいたいそう思うと回答している。

反面、生徒 28% はそう思わないと回答しており、教職員との温度差が見られる。今以上に部活動指導の充実を図るとともに、生徒の悩みや相談に親身になって対応することが大切である。

6 開かれた学校づくりについて

	A	B	C	D
教職員	7.7 %	64.1 %	25.6 %	2.6 %
生徒	10.0 %	56.0 %	27.4 %	6.6 %
保護者	8.2 %	59.8 %	27.2 %	4.9 %

教職員 72% は、公開授業やホームページ、学年だより等による情報発信をしていると答え、生徒 66%、保護者の 68% も、そう思う、だいたいそう思うと回答している。

反面、生徒 34%、保護者の 32% は、そう思わないと回答しており、生徒・保護者からはきめ細かい情報発信についての要望も出されていることから、あらゆる機会を捉えて情報の発信(ホームページの更新)をするとともに、学校からの便りが確実に保護者に届くようにして、保護者との連携を一層図ることが大切である。

7 家庭学習の習慣化について

	A	B	C	D
教職員	12.8 %	48.7 %	35.9 %	2.6 %
生徒	9.4 %	38.7 %	37.7 %	14.2 %
保護者	5.7 %	28.6 %	44.3 %	21.4 %

教職員 62% は、週 20 時間以上の家庭学習の習慣が身に付くよう課題を出すよう心がけていると回答している一方、生徒 52%、保護者 66% は、週 20 時間以上の家庭学習の時間を確保していないと回答している。宿題や週末課題を出すなど、教科指導や HR 指導等において、なお一層の働きかけが必要である。

8 心身の健康に関する自己管理について

	A	B	C	D
教職員	30.8 %	61.5 %	7.7 %	0.0 %
生徒	32.1 %	56.7 %	9.6 %	1.6 %
保護者	18.1 %	59.2 %	20.8 %	1.9 %

教職員 92%、生徒 89%、保護者 77% が健康・安全について自己管理ができていると回答している。

一方、生徒 11%、保護者の 23% が心身の健康について自己管理しようとする態度が身につけていないと回答している。

9 読書に親しむ習慣や図書館の有効活用について

	A	B	C	D
教職員	7.7 %	51.3 %	38.5 %	2.6 %
生徒	9.6 %	36.2 %	34.2 %	20.0 %
保護者	11.1 %	29.5 %	40.8 %	18.6 %

教職員 59% が読書への意欲を喚起し、生徒の 46% が図書館を有効活用している反面、生徒の 54%、保護者の 59% が読書の習慣が身につけていないと回答している。読書をする者、しない者の二極化が進んでいるようである。大学入試等における小論文対策としても読書が重要であることや、図書館の小論文コーナーが充実されたことなどを、教科指導や HR 指導等を通して説明していきたい。

10 充実した学校生活について

	A	B	C	D
教職員	15.4 %	79.5 %	2.6 %	2.6 %
生徒	29.8 %	54.4 %	12.4 %	3.4 %
保護者	34.2 %	53.9 %	9.4 %	2.4 %

教職員 95% は、生徒とのコミュニケーションを図り、いじめ等の未然防止に努めていると回答し、生徒 84%、保護者の 88% も、「学校が楽しい」「楽しく学校へ通っている」と答えている。

一方、教職員の 5%、生徒 16%、保護者の 12% が、そう思わないと感じていることも忘れてならない。後期に向けて、各部・学年の組織としての役割や責任をなお一層果たしていくことが重要である。